

コウノトリ但馬空港のあり方懇話会 第7回会議

説明資料

最終報告（案）概要

- 中間報告からの変更点
- 取組方策の主な記載内容

最終報告(案)の概要 [中間報告からの変更点：取組方策の区分]

➤ 中間報告における取組方策

＜主な内容＞

①短期 (さらなる利活用の促進)

旅客増加の取組み | 新たな路線展開 | 空港の賑わいづくり | 災害時の防災拠点としての活用

②中期 (国際的な安全基準への適応)

国際的な安全基準への適応

③中長期 (望ましい機能の確保)

就航率の向上

滑走路延長

【コロナ禍を経た環境変化】

- ・ コロナ禍を経ても、**但馬空港に求められる役割**(高速交通のハブ、交通結節点、防災拠点、交流拠点…等)は**変わらない**
- ・ 一方で、需要構造の変化(出張目的の旅客減)、世界的な物価高や円安の影響による燃料費、整備費等のコストの増大などの影響を受け、**航空会社は厳しい経営状況**にある
- ・ また、但馬空港に就航可能な**ATR42型機**の**就航空港**や**同機を保有する航空会社・機材数が増加**した

➤ **現空港を最大限活用**し、現実的な利活用と地道な取組みの積み重ねにより、あるべき姿の実現に向けて、**機能確保と価値向上**を図るべき

【あるべき姿】

- ・ 人とモノと地域をつなぐ空の玄関口
- ・ 地域の多様なモビリティの結節点
- ・ 地域の安全安心を支える防災拠点
- ・ 地域に開かれた賑わい、ワクワク感を体験できる空港

➤ 最終報告(案)における取組方策

＜主な内容＞

赤字：項目名を中間報告から変更した箇所

①**着実に取り組むこと**

旅客増加の取組み | 新たな路線展開 | 空港の賑わいづくり | 防災拠点としての**機能強化**

国際的な安全基準への適応

就航率の向上(現空港の施設改築を伴わないもの)

②**将来に向けて研究すること**

空飛ぶクルマ(eVTOL)の活用

地域の交通結節点としての活用

就航率の向上(現空港の施設改築を伴うもの)

滑走路延長

最終報告(案)の概要〔中間報告からの変更点：全体の構成〕

➤ 中間報告と最終報告(案)の構成の比較

最終報告(案)の構成		中間報告の構成
	内容・変更点	
1 検討の背景		1 検討の背景
2 <u>コロナ禍を経た環境変化</u>		
(1) <u>航空業界の環境変化</u>	・ 懇話会設置以降の経過を追記	
(2) <u>周辺地域の環境変化</u>	・ 航空旅客、航空会社の経営状況、プロペラ機の就航機材等の動向を追記	
	・ 但馬空港周辺地域の道路・観光・新たな移動目的等の動向を追記	
3 <u>但馬空港整備の経緯と課題</u>	・ 但馬空港が直面する課題として、外国人利用、二次交通、防災機能向上、設備老朽化、RESA基準適応を追記	2 但馬空港整備の経緯と課題
4 <u>但馬空港のあり方</u>		3 但馬空港のあり方
(1) <u>今後の但馬空港の役割とあるべき姿</u>	・ 交通結節点、空飛ぶクルマ(eVTOL)の社会実装との連携、市民交流等の拠点としての機能等を追記	(1) 今後の但馬空港の役割
(2) <u>取組方策</u>	・ 区分を見直し	(2) <u>取組方策</u>
① <u>着実に取り組むこと</u>	・ 旅客増加の取組み、新たな路線展開、空港の賑わいづくり、防災拠点としての機能強化、国際的な安全基準への適応(RESA)、現空港の施設改築を伴わない就航率の向上について記載	①短期(さらなる利活用の促進)
② <u>将来に向けて研究すること</u>	・ 空飛ぶクルマ(eVTOL)の活用、地域の交通結節点としての活用、現空港の施設改築を伴う就航率の向上(進入灯整備)、滑走路延長について記載	②中期(国際的な安全基準への適応)
	・ 本報告書が示す取組方策を基に県、空港運営会社、地元が一体となり取り組む旨を記載	③中長期(望ましい機能の確保)
5 <u>今後に向けて</u>		4 今後の進め方

最終報告(案)の概要 [取組方策の主な記載内容]

①着実に取り組むこと

(ア)旅客増加の取組み

- 但馬・京丹後地域や全国各地での**認知度の向上**
- ハブ機能としての役割強化のため、周辺地域とを結ぶ**二次交通の利便性向上**
- 観光客に加え、ビジネス客を誘引する**仕掛けづくり**

(イ)新たな路線展開

- **チャーター便運航**による地域のPRと実績づくり
- **首都圏や国際線就航空港等との接続**への取組み

(ウ)空港の賑わいづくり

- 空港公園等を活用した**集客交流拠点の設置**
- 遊覧飛行等の**新たな需要創出**
- ターミナルビル等の**施設の老朽化対応**

(エ)防災拠点としての機能強化

- 北近畿地域の**災害対応拠点としての防災機能向上**（非常用発電の確保、吊天井対策 等）
- 大規模災害時に対応できる**空港機能の維持**

(オ)国際的な安全基準への適応

- **RESAの国際的な安全基準への適切な対応**
- 定期便運航を維持するため、滑走路短縮ではなく用地拡張で実施

(カ)就航率の向上(現空港の施設改築を伴わないもの)

- 国が導入を進める**衛星航法補強システム(SBAS)**を活用した進入方式の適用
- **機材繰りの工夫**等による運航品質の改善

②将来に向けて研究すること

(ア)空飛ぶクルマ(eVTOL)の活用

- 官民連携し**バーティポート、格納庫等**の拠点整備

(イ)地域の交通結節点としての活用

- 飛行機や高速バス、路線バス等の**多様な交通の結節点としての活用**

(ウ)就航率の向上(現空港の施設改築を伴うもの)

- **進入灯の整備**（整備に当たっては費用や効果を検討）

(エ)滑走路延長

- **地元期待は大きい**が費用対効果等を十分勘案